保育計画成果報告書

法人名等	社会福祉法人遊亀会
施設名	ちいさな保育園エミー
報告者（役職）	桑川　優子（ 園長　）
住所・連絡先	長崎県大村市池田２丁目 925 番地 15
	☎　　0957-56-8388 E-mail　emmy0401@bz04.plala.or.jp

○タイトル（保育計画）

うれしい　たのしいがいっぱい　～体を動かす！が大好きな子に～

○主な助成備品

鉄棒・肋木　　パーゴラ

１．保育計画策定の目的

当園は、小規模保育所として開園し、その後認可保育園となり３歳以上児と共に過ごすことになりました。体格や運動発達など育ちのすべてにおいて、乳幼児期の年齢差、個人差による成長発達の違いは、十分に認識していたのですが、それはやはり大きいものでした。一人ひとりの発達に適した保育環境の重要性を日々実感して、職員が工夫しながら保育をしているのですが、まだまだ足りないのが現状です。

特に３歳以上児にとっては、自発的に興味があることにチャレンジしたくなる機会が多いことが大切になってくると思います。自分の力、特に運動面を発揮して遊べるように環境や遊具を整備したいと考え、この保育計画を策定しました。

伸び伸びと体を動かす楽しさや喜びをたくさん感じながら、様々な好奇心をもって好きなモノ、コトを増やすことで一人ひとりの育ちの土台をしっかりとゆっくりと育んでいきたいと考えています。

２．具体的な実施内容

園周辺には公園や田畑があり、自然を感じる草花や生き物との触れ合いを存分に経験しています。「きょうは、○○にいってざりがにつかまえたい」「でんしゃみにいく」等々と話し合って出かけ、３歳児４歳児は目的地が少し遠くても歩くことが大好きで、いろいろな発見を楽しんでいます。あぜ道から飛び降りたり、がけのぼりにチャレンジ

したりなど散歩道での遊びをつくりだしていて、危険なことと安全なことを遊びの中で少しずつ身に付けています。

鉄棒と肋木は、子どもたちが遊んでいる時間帯に設置工事をしてもらうことになりました。自分たちが毎日遊ぶ場所に、新しい遊具ができる様子を見ることも大切な機会だと思い、見学ゾーンを設けると、業者の方に話しかけ、わくわくしていることがみてとれました。地面を測り、掘り、コンクリートを入れ込み、午睡後にでき上がった遊具を見ると、喜びと驚きの声があがっていました。

＜鉄棒＞・鉄棒を両手でしっかりにぎる、ぶらさがる、足を地面から浮かす。
　　・（４歳児）おなかで支えてみる、両手両足でぶらさがる。
＜肋木＞・肋木を両手でしっかりにぎる、上までのぼる。
　　・２歳未満児は、必ず保育士がつく。

誰かが鉄棒や肋木で遊んでいると、それをみつけて他の子も一緒にぶら下がったり、登ったりしてみる。同年齢同士のこともあるけれど、大きい子がしているところに、小さい子が来て、まねしてみる。肋木の上からは、空や森、鳥、空港や高速道路が見えて、大きい声を出してみたくなる。友達と一緒がうれしい時間が流れていました。

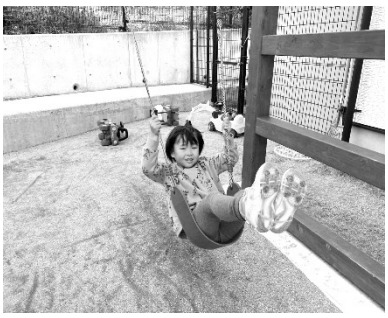
パーゴラ・ぶらんこ

夏になると園庭には日ざしがサンサンと降りそそぐので、パーゴラにサンシェードをつけて日陰を作りました。その場所でのプール遊びやままごとはとても心地よかったです。

ぶらんこを取りつけると、初めは大きい子がのっていることが多かったのですが、０歳児、１歳児、２歳児も安全にのれるので、大きい子が園外に出ているときには、かわりばんこしながら揺られ、ゆったりとした時間になっています。

３歳児４歳児は、「１、２・・・１０、ポーッとなったらかわりましょ、ポッポー」と誰かが言って、交代できる時もあればできないときもあるようです。一人ひとりがその時の気持ちと友達関係などの遊びの背景があるので、なるべく友達同士で話して解決できるように見守っています。自分の気持ちだけでなく、友達の思いに気付いて、折り合いをつけることを体験しているようです。

先日は、毛糸遊びでくもの巣作りをした経験から、縄跳び用のなわを結んで、くもの巣をつくってくぐって遊んでいました。異年齢同士で思いがつながって遊びが広がっている場面でした。



３．その成果と評価

新しい固定遊具があることで、子どもたち一人ひとりの動き方や目線が広がり、身体と心が大いに刺激されました。更に一日の中で、やりたいことが増えて、自分なりに楽

しく嬉しい遊びをつくっていく大切な経験につながっています。また、職員が予測しない遊び方に柔軟に対応し、危険と安全が遊びながら身に付くように心がけました。

・鉄棒は、両手でしっかり握ってぶら下がることができるようになりました。足が地面につかないようにとなると、足をかけなくてはいけないので難しいようでしたが、4歳児6名中5名は、何度も挑戦してできるようになりました。

・肋木は、3歳児4歳児は、初めから4段目まで上り、降りたり上がったりを繰り返していました。2歳児は、やれないことをやってみたい意欲でいっぱいなので、4歳児と同じようにしようと挑戦します。保育士が後ろでサポートし、夏には一人で上れるようになりました。

・パーゴラの側面に、つかまったり、上ったりしていました。4歳児1名は、上まで上って反対側に降りるというすごいことをして見せてくれました。本来の使い方ではないので、危なくもあり、やめさせたほうがいいのかを考え、その子と話すと、1回やりきったことで満足したようでした。

・ぶらんこの前にあるベンチに座って順番を待つことが1歳児から理解できて、大きい子が仲立ちとなって「かわりばんこ」を教えてくれています。
3歳児4歳児は、近くの公園まで行かないと、大きく揺れるぶらんこにのれなかったのですが、園庭にあるので、小さい子がいないときにはいつでものれるようになりました。

4．今後の課題と展望

・できるようになることが嬉しく、自信にもつながるので、4歳児5歳児は、チャレンジカードなどを工夫して作り取り入れていく。

・子どもたちから様々な発想を引き出して、これらの固定遊具を活かしたごっこあそびやサーキットあそびを年齢に配慮したグループ毎に楽しんでいきたい。

新しい園を職員や子どもたちと少しずつ作っていく保育の中で、今回の助成による遊具が増えたことは、身近にある運動遊具で、いつでも体を動かして遊ぶ楽しさをより豊かに感じさせてくれるものになりました。保育目標である“自分が大好きな子”“友達が大好きな子”“考えることが大好きな子”のもと、これからも子どもたちが“好きなこと”を増やしていきたいと思います。

以上